

各地のまちづくりは今

～「東中島定期借地権付きコーポラティブ住宅」見学会～

福岡、広島、東京などの遠方へ短時間で訪れることができる新幹線。

その新幹線が毎日停車し、大阪の顔の一つである「JR新大阪駅」の東側に隣接するまち「日之出」に、2001年に誕生した「日之出温泉コープ住宅「リベルタ」」に引き続き、この2003年の春、2つめの生命(いのち)「東中島定期借地権付きコーポラティブ住宅」が誕生しました。

同住宅は、大阪府内の市町村や他の都府県、建築関係者からの注目を浴びており、各方面から総勢300人の見学者が来ている中、地元の大阪市新大阪人権協会をはじめ、部落解放同盟大阪府連合会日之出支部や同住宅建設組合のみなさんのご協力により、大阪府の各市町村の人権地域協議会や市町村、「まちづくり活動」等に取り組まれている方々に集まっていただき、(財)大阪府人権協会主催による「東中島定期借地権付きコーポラティブ住宅」現地見学会を2003年3月1日に開催することができました。



住む人のつながりを大切に設計と一帯ごとの思いが現れている外観



住む人の思いを形にした部屋の内装

当日は、あいにく雨の降る見学会となったものの約50人の参加があり、地域の実態を通しての中学校区のまちづくり活動や、入居予定者からの住宅建設の経過と苦労話をまじえた体験談、まちづくりの専門家から同住宅の概要説明と入居者どうしの住宅建設活動、そして実際に入居予定の個性ある10戸の住宅の見学を行いました。

受け入れていただいた日之出支部からは、地域実態を通しての中学校区のまちづくり活動は、2000年に行われた部落問題実態調査から出た部落における流入入問題など住宅・住環境の諸課題を通して、まちづくりのフィールドを地区から中学校区へとすすめられてきた活動やその経過など、校区ぐるみのまちづくり運動について話していただきました。

入居予定者からは、“この家を建てる苦労はあったけどもそれ以上に入居者(仲間)どうして、ともに作ってきた楽しみをもっとわかちあいたかった”など、住宅建設に関わる体験談をいただきました。

同住宅のコーディネートを手がけ、当協会のまちづくりアドバイザーに登録している「CASE(ケース)／まちづくり研究所」の寺川政司さんからは、住宅の概要説明と併せ、1戸建て感覚の住宅として自分たちの家を実感でき、中堅所得者層の方でも“私でも家を持てるんだ”と思えるような住宅に意義を感じて計画したことや、個性のある入居者と設計士(4社の設計事務所)どうして作ってきたこと、地域とのつながりや人々とのつながりをこわさないように住宅建設プランの中に位置づけをしたことなど、一体となって建設されてきたことが伝わった見学会となりました。



見学会に先立ちあいさつをする大阪府人権協会谷元企画相談部長と、今回のコーポラティブ住宅の建設に関わって全体的なコーディネートをされた寺川政司さん(case/まちづくり研究所)